改善状況

2009年版レポートの第三者意見に対する取り組み

指摘事項

環境関連以外の取り組みやデータについても、グループとしての報告書としての精度を高めることを期待します。

カシオの対応

2010年版では、従業員パート、社会貢献活動パートにおいて、現時点で取得可能な範囲でグループ会社の取り組み、データを開示するよう努めました。今後も継続して強化を図っていきます。

指摘事項

温室効果ガスの削減について、現在の排出分の回収・処理や量産ラインでの導入などの施策が早期に実現することを強く期待します。

カシオの対応

2009年度までに、SF_6の代替として、F_2を使用する工程の評価は完了しましたが、カシオグループのデバイス事業再編により、SF_6を排出している高知カシオと八王子技術センター（デバイス部門）が、2010年4月1日をもって、カシオグループから、凸版印刷グループに譲渡されました。従って、本工程の開発による排出分の回収・処理や量産ラインでの導入などの施策は、凸版印刷グループに移管されることになります。なお、高知カシオと八王子技術センター（デバイス部門）で排出していたSF_6の排出量分は、2010年度以降、カシオグループとしては無くなることになります。

指摘事項

調達・購入先のCSRへの取り組みについて、今後は、サプライヤーの環境や人権への取り組みや課題を可視化し、事例の共有や表彰、課題解決に向けて交流する体制を整えることを、引き続き期待します。

カシオの対応

2009年度は、中国とタイのお取引先に対しアンケートを実施。その集計・分析結果とともに、カシオが目指すCSR調達のあるべき姿についての考え方をフィードバックしました。国内の主要なお取引先に対しては、調査形式を、従来の全39項目（実施済 / 計画中 / 予定無し）から全340項目（5点法）に変更してアンケートを実施。「全お取引先の回答平均値」と「お取引先ごとの回答値」を一覧表で対比した資料を、お取引先ごとにフィードバックしました。

また、中国の資材調達方針説明会では、代表取引先にCSR取り組み事例の発表を行っていただくなど、お取引先参加型の「双方向コミュニケーション」の場への転換を図りました。

今後は、海外の現場視察による実態把握を行っていくとともに、業界内でのCSR推進に関する交流会の実施等を検討していきます。

指摘事項

障害をもつ人の雇用の促進について、長年の課題であった法定雇用率の達成を評価するとともに、グループ企業を含め、働き続けやすさを向上するための工夫を、当事者の協力を得て進めること。

カシオの対応

カシオ計算機単体の障害者雇用率は1.93%（2008年度　1.83%）となり国内連結での雇用率は1.76%（2008年度　1.67%）となっています。

法定雇用率の達成にむけて推進を図っていきます。
また、採用後も安心して働けるように、カシオ計算機では入社3年後について定期的面談等を機軸とした入社後フォローを行っていますが、今後はカシオグループ全体で展開していく予定です。

指摘事項

CSRのグループ全体での取り組みについて、中期経営計画の重要な構成要素と位置付けた、中期的なCSR戦略の策定と、ボトムアップを促す推進体制の確立を急ぐこと。

カシオの対応

カシオでは、2009年3月開催のCSR委員会において、中期的なCSRの取組み方針を、
(1) ステークホルダーからのご意見を踏まえ、社会的な要請を把握し、CSR課題を常に見える化する。
(2) CSR課題の推進に当たっては、関連部門が協業しボトムアップによる課題の解決を図る。
(3) 具体的な課題の推進範囲は、カシオグループのみならず、関連するお取引先までを対象とし、それぞれの実情に合わせて柔軟に推進する。
ことを決定し、これに合せてＣＳＲ委員会のあり方を大幅に改定しました。
新しいCSR委員会及びCSRの推進体制は、2010年度からスタートしています。

指摘事項

紙の使用量について、国内外での販売拠点の拡大に伴い増加していますが、紙を使用する場面を再度精査して、拠点ごとの使用枚数を削減する取り組みを加速するとともに、取扱説明書などにユニバーサル・デザイン・フォントを導入するなどの他社事例の研究を進めること。

カシオの対応

2009年度からスタートした国内拠点のオフィス用紙使用量の削減目標は、「売上高原単位で2012年度までに2007年度比10%削減」です。2009年度の実績は、売上高が2007年度比32%減少したため、売上高原単位は2007年度比で約17%増となりましたが、オフィス用紙の使用量そのものは約21%減少しています。また海外においてもオフィス用紙の使用量は、2008年度比で約8%減少しています。
国内外ともに、今後も引き続き紙使用量の削減に取り組んでいきます。
製品に同梱される「取扱説明書」（取説）に関してもサイズ縮小、ページ数の削減等により「紙使用量の削減」の取り組みを実施し、結果、2009年度の紙使用量は、QV・関数電卓・電子辞書の品目平均が、前年度実績に対し39%の削減となっています。
「ユニバーサル・デザイン・フォント」の導入に関してはCS向上の観点よりユーザー側にたった「読みやすさ」「見易さ」「紙使用量の削減」を考え導入を推進中です。

指摘事項

デジタルカメラ、電子辞書など、高機能ながらリサイクルが確立していない製品群について、再び高騰しつつある稀少金属（レアメタル）の再利用の観点から、販売促進と連動した回収や再利用製品の開発など、さらに踏み込んだ取り組みを促すこと。

カシオの対応

デジタルカメラを含むパーソナル家電に対し、当社が参画するCIPA（カメラ映像機器工業会）、JEITA（電子情報技術産業協会）内に昨年より分科会（勉強会）が設置され、希少金属（レアメタル）に対する対応に関する検討を同業他社とともに推進中です。

指摘事項

グループ全体の人的ポートフォリオについて、長期計画を立案した上で、真にグローバルな企業として人的な多様性を積極的に活用できる採用・育成体制を整えること。

カシオの対応

2010 年度より、「グローバル企業」人材マネジメント展開についての取扱と推進に向けた検証・検討を加速化させた取り組みを開始いたします。

はじめに、人事部にとどまらず、社内関係部門及び海外現地拠点側がそれぞれで直面している問題点やニーズについての洗い出しを行います。

そして、それらを踏まえて上で「グローバル人材マネジメント体制構築」に向けた、より具体的な施策を立案し、その推進を段階的且つ計画的に試行・実行をしていきます。